

EEM350 医療概論Ⅱ

3年 3,4クォーター

担当教員 吉村 臨兵

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 一部導入

単位数 2

曜日・時限 木曜日・1限目

授業概要

医療は、医師・看護師など各種の専門職によって供給されている。そしてまた、それらは保険料や税金をもとにして、公的に供給されている。したがって現代の日本の医療は、商品としてみると、その値段をはじめ、量や質も規制される特殊なサービスといえる。この医療というものが社会的、経済的なつながりのなかで占めてきた位置を、近代以後の歴史もふまえて理解することを旨とする。

そこでまず、医療を社会保障の枠組みからみる。今日の高齢化あるいは少子化を念頭におきながら、「健康」観の源流についても考える。

つぎに、公的な医療保険の位置づけを概観する。あわせて、介護保険をはじめ、医療と重なり関連しあう諸制度を学ぶ。それらに関する国際比較データも検討する。

さらに、担い手と提供形態の多様化や過不足の現状を把握する。その他、関連するいくつかのトピックに関する話題を、報道を中心に何度かとりあげ、その背景とともに理解する。

到達目標

- (1) 医療が国費や社会保険といった公的な財源によって供給されている事情や経緯を、考察する。
- (2) 工業化の時代以降の経済的な基盤のうえで、医療とそれに関連して発達した介護などのサービス供給がどのような位置をしめるかについて、考察する。

先修科目

特になし

教科書・参考資料等

参考書（教科書は指定しない。）

- ・堤 未果『沈みゆく大国アメリカ〈逃げ切れ！日本の医療〉』（集英社新書、2015年）
- ・本田宏編著『医療崩壊はこうすれば防げる！』（洋泉社新書、2008年）
- ・キャンベル, J.C. 『日本の医療』（中公新書、1996年）
- ・厚生労働省編『厚生統計要覧』（厚生統計協会、各年）授業の方法
講義形式で、黒板やプリントを使用する。AV教材等も利用する。

成績評価

- ・おおよそ10回目をめどに中間レポートを提出。中間レポートは、講義中に紹介する書籍または映画などについての感想文である。
- ・おおよそ10回目以降における応答状況に対して評価する。

成績

- 75% 中間レポート
- 25% おおよそ10回目以降の応答状況

授業スケジュール

第1回：社会政策と基本的ニーズ

近代化・工業化に伴う社会変化に応じて登場した社会保障制度や雇用政策が、今日の保健・医療にかかわるニーズをどのように満たしてきたかについて学ぶ。

第2回：社会保障の枠組みと保健・医療

現代の各種の社会保険と公的扶助の制度に保健・医療がどのように関連するかを学ぶ。

第3回：国内人口統計をみる

工業化のすすんだ高度成長期以後の少子化・晩産化・高齢化を人口データとして学ぶ。

第4回：トピック（1）

例：食品にも多用される抗生物質が医療のすがたに意外な影響を与えることを知る。

第5回：医療保険と医療費

1960年代以来のいわゆる「皆保険」と、その後の高齢者医療費の推移を学ぶ。

第6回：公的保険あれこれ

国民健康保険，介護保険，後期高齢者医療がどのように地域に立脚しているのかを学ぶ。

第7回：医療保険のサービスと対価のしくみ

だれの払ったお金からどのように医療機関が対価を得ているのかについて，審査や「診療報酬」の仕組みから学ぶ。

第8回：保健医療データの国際比較

日本の医療費が，一人あたりの支出でも経済全体に占める規模でも OECD 諸国のなかでほぼ中位にあることを知り，その特徴について学ぶ。

第9回：工業化と「健康」観

個々人の健康が現代のように意識されるようになった歴史を学ぶ。

第10回：トピック（2）

例：いわゆる乱脈医療とその背景を学ぶ。

第11回：経済のサービス化

保健・医療と社会福祉サービスは経済のなかでどんな位置をしめているかについて学ぶ。

第12回：サービス供給にかかわる組織とその多様化

医療機関，社会福祉法人，NPOなどは各々どんな役割を担っているのかについて学ぶ。

第13回：トピック（3）

例：医療事故や薬害とマスコミの関係について学ぶ。

第14回：従事者の育成と就業形態

医療関係者や社会福祉関係者がどう育成されどう働いているかを学ぶ。

第15回：保健福祉と行財政

医療の周辺に位置する領域にはどんな行政上・財政上の課題があるのかについて学ぶ。

事前・事後学習

講義をふりかえり，レポート作成に向けた文献を読むために，週あたり概ね 2～3 時間程度が必要である。